

## 会社は誰のもの①大塚家具の場合

### 相次ぐ同族会社の内紛

特定の親族が幹部に名を連ねる同族企業ではこれまでも、一族による内紛が起きたり、不祥事を機に体制が刷新されたりしたケースが相次いでいますが、株式を公開している上場企業では、創業家一族の内紛も、単なる内輪もめでは済まされません。最近では、大塚家具でも創業者の父・大塚勝久氏と娘・久美子社長との、家族を割った骨肉の争いが注目されました。

業績不振や自社株買いをめぐる不祥事に揺れていた大塚家具の社長に、久美子氏が初めて就任したのは2009年3月。それまで社長を務めていた勝久氏は、一旦会長に退きます。経営方針を一新した大塚久美子社長の経営になっても売上は伸びず。2014年7月、見かねた大塚勝久氏が社長の座に戻り、再び、会員制の対一接客のスタイルを徹底させようとするが、やはり売上は伸びず、むしろ来客数は20%減少して赤字となってしまいます。

2015年1月、業績悪化を理由に、久美子氏は勝久氏の社長退任を求めて株主提案を実行。それを受けて取締役会は、勝久氏の社長退任・会長専任と久美子氏の社長就任を決定。2015年2月、業績悪化を理由に、勝久氏は会長職からも任を解かれることに。そして2015年3月27日に開かれた大塚家具株主総会で、勝久氏が株主提案した「久美子氏社長辞任、勝久氏の会長再任」の株主総会の議決に向け、両陣営が「委任状争奪戦」、いわゆるプロキシーファイトを繰り広げます。

この時点で筆頭株主は勝久氏(発行済み株式の約18%)、2位は一族の資産管理会社「ききょう企画」(東京都渋谷区)で、約10%を保有していましたが、この会社の取締役会からは前年1月、勝久氏の妻や、勝久氏の長男で大塚家具専務の勝之氏が解任され、久美子氏自身や、「反・勝久氏」とみられる二番目の弟、雅之氏が取締役に残っており、久美子社長側とみられていました。

勝久氏は、従業員、一族を巻き込んだ反社長パフォーマンスを展開しましたが、株主総会の多数決では、大株主である金融機関やファンドは、現社長側につき、あっさり勝久氏の敗北となりました。

### 内紛を受けて、大塚家具の株価も急上昇～2度の下方修正で株価は暴落

株主総会前の騒動の時、委任状争奪戦の思惑から株価は2,488円(15年3月3日)に急騰。しかし今年に入って2度目の下方修正を受けて株価は急落。そして今年8月8日、一時、915円まで下落しました。高値から6割の大暴落です。久美子社長の経営改革も結果が出ず、一連の騒動は、市場からは「お家騒動」による経営の混乱は上場企業にあるまじき行為」と指摘され、イメージ悪化による顧客離れはとめようもありませんでした。

一方、大塚家具の経営権をめぐる長女の久美子社長と対立して敗れ、同社を去った

勝久氏は、段階的に保有株式を売却しており、その資金で勝久氏は新会社「匠大塚」を設立し、今年6月下旬には埼玉県春日部市に旗艦店「春日部本店」をオープンしました。

